国営緊急農地再編整備事業

たいせつひがしかわ 大雪東川第一地区
たいせつひがしかわ 大雪東川第二地区

大雪東川第一地区の概要

○関係市町村：北海道 上川郡 東川町
○受益面積　：1，157ha
○受益戸数　：231戸
○主要作物　：水稲、大豆、そば、ﾄﾏﾄ、ﾋﾟｰﾏﾝ、ねぎ、ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ、ｽｲｰﾄｺｰﾝ、だいこん、にんじん、かぼちゃ

大雪東川第二地区の概要

○関係市町村：北海道 上川郡 東川町
○受益面積　：1，639ha
○受益戸数　：307戸
○主要作物　：水稲、大豆、そば、ﾄﾏﾄ、ﾋﾟｰﾏﾝ、ねぎ、ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ、ｽｲｰﾄｺｰﾝ、だいこん、にんじん、かぼちゃ

地域農業の現状と課題

本地区は、北海道中央部、大雪山国立公園の麓にある東川町に位置し、町内を東西に流れる1級河川石狩川水系の忠別川と倉沼川流域に広がる水田地帯です。

地域の農業は、水稲を主体としながら、露地野菜や施設野菜を組込んだ複合経営が展開されており、近年は安心・安全で高品質な農産物の生産に力を入れています。

水稲については、独自の認証基準（農薬使用基準、防除基準など）をクリアした「東川米」ブランドとして販売しており、特許庁が定める地域団体商標にも登録されています。また、トマトやブロッコリーなど野菜類の栽培においてはGAPを導入し、品質管理の徹底により生食でも安全に食べられる「ひがしかわサラダ」を販売しています。これらの「東川米」、「ひがしかわサラダ」は首都圏など全国各地で販売されており、さらなる販路の拡大を目指しています。

さらに、東川町農業組合として「輸出事業計画」を策定し、令和7年に輸出量1,000t（輸出国は10カ国以上）を目標に輸出拡大に向けた取組を実施しています。

しかし、地区内の農地は、小区画、排水不良等のほ場条件に加え、離農跡地の継承による経営耕地の分散化が進んでいることから、農作業効率が悪く、農業生産性の向上を図るうえで支障を来しており、現在の生産基盤のままでは、将来的に担い手への農地流動化が困難となり、地域では農業者の高齢化、後継者の不足等から耕作放棄地が増加するおそれがあります。

30～50aの小区画ほ場が地区内の9割を占め、機械作業の効率が悪い

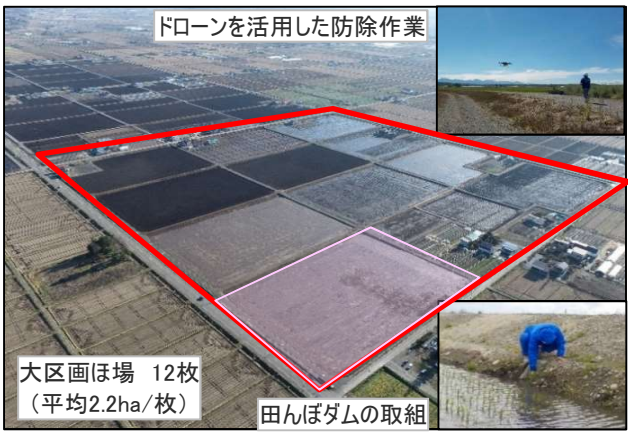
排水不良なほ場では機械がぬかるみやすく、作業効率が悪い

地区内では耕作放棄地が発生

元気で魅力ある東川農業を目指して

～区画整理による大区画化及び水田フル活用による地域ブランドの強化と地域社会の活性化～

国営緊急農地再編整備事業による生産基盤の強化



国営緊急農地再編整備事業により、ほ場の大区画化や暗渠排水（地下かんがいシステム）、用排水路等の整備により、優良農地の確保・担い手への農地利用集積を図ります。また、大区画化ほ場を契機としたスマート農業の導入や、田んぼダム（雨水の貯留機能）の取組も進められています。

事業と一体となって進められる地域の取組み

ひがしかわアグリ 2030ビジョン
【2024(R6)–2030(R12)】

農業者人口減少への対応と担い手育成

農業教育や技術研修の充実。農育や食育事業の実施、
農業とICTを組み合わせたスマートファーミングの導入などを推進。

東川米・ひがしかわサラダの生産拡大

大区画化し、暗渠排水（地下かんがいシステム）を整備したほ場で、
ブロッコリー機械化収穫体系の確立を推進する。
また、ライスターミナル（精米工場）完成により、
精米取扱数量の増加、
高付加価値の機能性表示食品の開発を目指す。

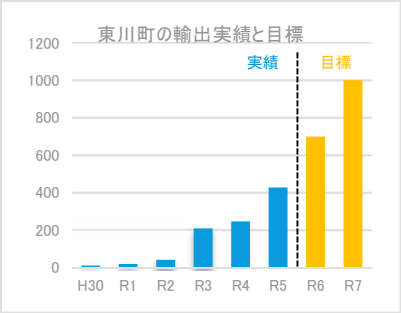
生産基盤の整備と併せて、これら取組みを推進することで高品質・安定生産による地域ブランドを強化

「ひがしかわサラダ」のブランド強化

ひがしかわサラダ

ひがしかわサラダの全国販売を拡大
（写真は神奈川県での販売の様子）

輸出の拡大



「輸出事業計画」を策定し、令和7年に1,000t
の輸出目標に向けた取組を実施

高付加価値の取組拡大

東川町産の完熟トマト100%
ジュース「ひがしかわトマト」